

学びに "プラス1" ～ "温もり" を伝える～

『小学校学習指導要領』社会科の目標の冒頭部に、「社会生活についての理解を図り」とあります。「社会生活」について、『小学校学習指導要領解説社会編』では、次のように解説しています。

○ 「社会生活」とは、社会とのかかわりの中での人々の生活のこと（下線は筆者）

今回の「プラス1」は、「社会とのかかわり」に着目し、**人々の生活の中に「温もり」を感じることができる実践例**を紹介します。

〈小学3年「店ではたらく人」～コンビニエンスストア～〉



この単元の学習では、地域にあるスーパーマーケット、コンビニエンスストア、デパート、移動販売などの日常生活に必要な商品を販売する仕事について調べ、それらは自分たちの生活を支えていることを考えます。実際の学習では、店の形態によって販売の仕方に違いがあることに気付き、販売に見られる仕事の特色を具体的にとらえます。

「店の特色」と「人々の生活」とのかかわりを考えさせる！

コンビニエンスストアの特色として、夜遅くまで、あるいは24時間営業していることが挙げられます。そこで、次の発問をし、子どもたちに考えさせ、話し合わせます。



コンビニエンスストアは、
なぜ、夜遅くまで開いている
のでしょうか？

話し合いの後、次の例のように、共働きが増えていること（女性の社会進出等）とコンビニエンスストアの営業時間とのかかわりについて、小学生にも分かるように話します。

〈例〉最近は共働きといって、お父さんとお母さんの両方が働いているおうちが多くなっています。仕事をして帰りが遅くなったり、疲れていたりしたら、晩ご飯を作るのが大変な時もありますね。そんなときに、コンビニエンスストアに行けば、お弁当などすぐに食べられるものを時間をあまりかけずに買うことができて助かりますね。

みなさんの中には、いつもおうちの人の料理を食べたいと思う人もいるでしょうが、おうちの人が疲れていたり、忙しくて料理する時間がなかったりしたときなどには、おうちの人に感謝してコンビニエンスストアのお弁当などをおいしく食べたいですね！



※ 〈例〉を提示する際の配慮事項

子どもたちに例を提示する際は、下に示したような、学級の子どもたちの家庭環境等に配慮し、実態に応じた例を提示することが大切です。

- 母子・父子家庭の子ども
- 両親共に無職の子ども
- 食事が、いつもコンビニ弁当などの子ども等

なお、コンビニにおける他の例として、交通手段がなかったり、忙しかったりして、買い物になかなかいけない人や高齢者、単身赴任者等にとって、便利でありがたい「食事の宅配サービス」等を取り上げることも考えられます。

このような指導をプラスすることにより、現代の社会生活の状況に触れながら、子どもたちに、家族を思いやる温かい気持ちをもたせることができます。

人々の生活の営みにおける様々な「かかわり」について学ぶ社会科だからこそ、学習する中に「温もり」を伝えたいものです！